

農業生産法人有限会社伊盛牧場

6次産業化における 農産物加工の拡大



代表取締役 伊盛 米俊

Background

経緯

当社は1993年に和牛の生産からスタートし、その後、乳牛に転換。以来、酪農家として生乳を生産し、乳業メーカーに供給してきた。しかし、生乳の卸しだけでは経営的に厳しいという現実と直面していた。そこで農産物の生産・加工・販売を一括して行う6次産業化に注目し、離島農業の競争力強化を目指し、2009年に直売店をオープンさせた。

直売店では、牧場直営のイメージ力を活かし、「牧場直営のジェラード」を加工・販売したところ、観光客はもちろん地元客にも好評いただいた。さらに2015年に新石垣空港の出店で需要が増し、当初想定していた製造量を遥かに超えた。これにより製造機械の回転数が増え、生産を間に合わせるため残業が増え従業員の負担など限界を感じていた。

Content

事業内容

製造機械の回転数の改善や従業員負担などを解消するため、ものづくり補助金を活用し、製造量の増加が見込める最新の製造機械としてパステライザー（原料殺菌機）とアイスクリームフリーザー（アイスクリーム製造機）を導入した。問題解消により業績拡大と従業員負担の軽減、新商品の開発、消費者のニーズにも対応できる製造工程の確立など、多くの改革を実行した。



季節限定などを合わせるとジェラードのアイテム数は40種類ほどになる

Result

成果

従来の機械に比べて製造能力において2倍の生産能力が見込まれる成果を得た。生産効率が向上されると同時に、製造従事時間が短縮され、従業員の肉体的、精神的負担などが軽減された。従業員の負担減により余裕が生まれ、新商品開発に意欲的に取り組めるようになり、従業員のモチベーションアップにつながっている。これにより物心共に増産・付加価値アップを実現する体制が整った。



生産量が約2倍になったパステライザー（左）とフリーザー

Outlook

今後の展望

本事業で得た成果により、供給体制が整うことにより、業務拡大の構想が描けるようになり、次なる戦略の予測もしやすくなった。そこでさらなる量産体制を整え6次産業化への取り組みを加速させたい。具体的には新商品の原料である農産物（マンゴー、パイナップルなどの果樹、ミント、レモングラスなどの香料など）の買い入れ増加、製造販売の従業員の雇用増加、機会効果として国内量販店への販売進出を目指す。さらに沖縄県及び石垣島は海外に近いという地理的好環境を活かし、台湾、香港、上海などの海外輸出取引も視野に取り組んでいきたい。

■代表者名／代表取締役 伊盛 米俊
 ■設立年／平成5年
 ■所在地／〒907-0024 沖縄県石垣市新川1510-67
 (工場) 〒907-0024 沖縄県石垣市新川1583-74
 ■電話番号／0980-83-1316

■F A X／0980-83-1316
 ■資本金／300万円
 ■従業員数／25人
 ■業 種／食料品製造業